

さき草の中にもはやきかみぐさやがて御調にそなへつる哉
〔年貞記〕

〔大上膳御名之事〕女房ことば

一大こんから物。

〔倭訓栢前編十二〕すゝしろ○中
七種の菜にいふものは蘿蔔也といへり、さればすゝは涼しき
義、しろは白の義成べし、一説に本草に薊其花如髪也といへば、あざみなるべしといへり、されば
髪の義によれる也、又薩摩にていふは常は河高菜といふ田がらしなり、

〔古今要覽稿 菜蔬〕すゝしろ おほね 蘿蔔

すゝしろ一名おほね、一名つちおほね、一名かゝみくさ、一名こころぶと、一名だいこんは漢名を
蘿菔、一名蘿蔔、一名來服、一名萊菔、一名蘿白、一名蘿叱、一名蘿華、一名夢卜子、一名差精、一
名唐菁、一名蘆菔、一名蓴遠、一名蓴遠子、一名葵、一名葵草、一名葵子、一名雹葵、一名菔子、一名紫花菘
一名溫菘、一名楚菘、一名秦菘、一名玉本、一名土酥、一名地酥、一名大菜根、一名篤魯馬と云、此種は民
間日用のものにて、四時ともにこれあり、春生するものを俗に三月大根、一名つばくろ大根、一名
ほそね大根といひ、漢名を楊花蘿蔔、一名破地錐といひ、夏生するものを夏大根、漢名を夏蘿蔔、一
名夏松蘿蔔、一名夏生といふ、近郊練馬清水村のもの、その名四方に広られたり、また秋生するも
のを秋大根、漢名をまた蘿蔔と此蘿蔔は即北○方の土名なりいひ、冬生するものを冬大根、漢名をまた酥と此土
名なりいふいはゆるすゝしろ以下の諸名、おほくは冬生するおほねの名なり、冬生するは
夏秋に生ずるよりも、その味殊に勝れたるによりてなり、○中

釋名

すゝしろ、河海抄、拾芥抄、公事、按に延喜式に、蔓根須々保利六石、菁根須々保利一名とみえ、また新撰
字鏡に、菹菹同側魚反、須々保利とみえたり、これによれば、皇朝にてすゝほりを作るに、蔓根菁根